

授業シラバス

詳細情報

科目名「クラス名」(サブタイトル)	期別	単位数	開講年次
特別講義A(表現する力をきたえるプログラム)	通年	4	3
担当教員	田村 馨、兵土美和子		

概要

皆さんが社会に出てもっとも求められる能力は「表現する力」です。伝えるべきことをちゃんと伝えることが要求されるにもかかわらず、それを教えたり訓練する場は多くありません。本講義ではその機会と場を提供したいと思っています。

だからといって、ノウハウやテクニックそのものを教える講義ではありません。1つには、表現する意欲、欲求や姿勢がない人にノウハウやテクニックを授けても、その人からは他者の共鳴や感動を得る表現は生まれません。2つには、人によって、「何を」「どう」表現したいかは異なるので、身につければ表現する力が増すノウハウやテクニックも人によって違うからです。

本講義は、「表現する力をつけたい、高めたい」と思う学生に対して、「試行錯誤の中から自分の表現力の強みと弱みに気づき、自分なりのスタイルで表現する勘所を掴む場と機会を提供する」ものです。特に「書く力をつける」ことで達成度が計れるように設計されています。

予定では講義以外の課外プログラムも提供していきたいと思っています。外部の講師は随時招聘していく予定です。講義は田村と兵土美和子氏(プランニング&コミュニケーションプロデューサー)が担当します。

評価基準および方法

- ・定期試験、課外プログラムへの参加状況(実際の参加およびMLへの参加)、出席状況(課題提出も加味した)で評価します。
- ・それぞれの割合は20:40:40です。

テキスト

使用しません。

履修上の留意点

- ・講義以外のプログラム(昨年度はレゴを使ったプログラム、外部講師の講話、表現する力をきたえる実践としての中学校(梅林中、長尾中)・高校(修猷館高校)でのプログラム)への参加は単位取得の要件です。そのため受講生にはタイムマネジメント力が求められます。就職活動やバイト、クラブ・サークル活動をやりながら、巧く時間をやりくりするマネジメント力が鍛えられ、試されます。
- ・ML(メーリングリスト)を活用し諸連絡・課題提出を行いますので、定期的なPCでのメールチェックが必須となります。
- ・講義はワークショップを中心に進めますので8割以上の出席を受講生には求めます。
- ・授業開始5分を過ぎての入室を禁じます。

授業計画

1. なぜ表現するのか?(田村・兵土)
 2. なぜ表現する力が求められるのか?(田村・兵土)
 3. 表現するとはどういうこと?(田村・兵土)
 4. 自分の表現力を点検してみよう(兵土)
 5. 自己紹介力を点検する1(兵土)
 6. 自己紹介力を点検する2(兵土)
 7. 表現力をきたえる1(書く力、読む力)(兵土)
 8. 表現力をきたえる2(書く力、読む力)(兵土)
 9. 表現力をきたえる3(書く力、読む力)(兵土)
 10. 表現力をきたえる4(書く力、読む力)(兵土)
 11. ロジカルシンキングで「自分の考え」をあぶりだそう1(田村・兵土)
 12. ロジカルシンキングで「自分の考え」をあぶりだそう2(田村・兵土)
 13. ロジカルシンキングで「自分の考え」をあぶりだそう3(田村・兵土)
 14. 自分の感覚、感性にきづく1(兵土)
 15. 自分の感覚、感性にきづく2(兵土)
 16. 自分の感覚、感性をきたえる1(兵土)
 17. 自分の感覚、感性をきたえる2(兵土)
 18. 自分の感覚、感性をきたえる3(兵土)
 19. 構成力をきたえよう1(兵土)
 20. 構成力をきたえよう2(兵土)
 21. 構成力をきたえよう3(兵土)
 22. 構成力をきたえよう4(兵土)
 23. エピソードで自分を語る1(兵土)
 24. エピソードで自分を語る2(兵土)
 25. エピソードで自分を語る3(兵土)
 26. 自己紹介文を書いてみよう1(兵土)
 27. 自己紹介文を書いてみよう2(兵土)
 28. リテラシーとしての表現力(田村・兵土)
- 注: 講義の順番、内容、ゲストは進捗状況や課外プログラムとの関係、ゲストのスケジュールなどで変わってきます。

[研究者情報](#)
[教員プロフィール](#)
[一覧に戻る](#)